

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 7 月 25 日 (2013.7.25)

【公表番号】特表 2012-529506 (P2012-529506A)

【公表日】平成 24 年 11 月 22 日 (2012.11.22)

【年通号数】公開・登録公報 2012-049

【出願番号】特願 2012-514923 (P2012-514923)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/727 (2006.01)

A 6 1 K 31/737 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 1/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/727

A 6 1 K 31/737

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 47/36

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 1/02

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 6 月 6 日 (2013.6.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

哺乳類対象の口腔粘膜炎の治療に使用する、キトサンと、ヘパリン、ヘパラン硫酸、及びデキストラン硫酸から成る群から選択される負荷電性多糖類とのイオン結合型錯体を含むことを特徴とする組成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の組成物において、前記キトサンのジアセチル化度が 50 乃至 99 % の範囲内であり、好ましくは 80 乃至 95 % の範囲内であることを特徴とする組成物。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の組成物において、前記負荷電性多糖類がヘパリンであることを特徴とする組成物。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の組成物において、当該組成物中の前記キトサンの正電荷と前記負荷電性多糖類の負電荷との比率が 10 : 1 乃至 10 : 8 の範囲内であり、好ましくは 10 : 3 乃至 10 : 6 の範囲内であり、より好ましくは 10 : 4 乃至 10 : 5 の範囲内にあることを特徴とする組成物。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の組成物において、当該組成物中の前記キトサン

と前記負荷電性多糖類との総濃度が、前記組成物の全重量に対して 0.1 乃至 5 重量 % の範囲内にあり、好ましくは 0.1 乃至 3 重量 % の範囲内にあることを特徴とする組成物。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の組成物において、当該組成物中の前記キトサンと前記負荷電性多糖類との総濃度が、前記組成物の全重量に対して 0.1 乃至 0.5 重量 % の範囲内にあることを特徴とする組成物。

【請求項 7】

請求項 5 に記載の組成物において、当該組成物中の前記キトサンと前記負荷電性多糖類との総濃度が、前記組成物の全重量に対して 0.5 乃至 5 重量 % の範囲内にあり、好ましくは 1 乃至 3 重量 % の範囲内にあることを特徴とする組成物。

【請求項 8】

請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の組成物において、当該組成物が抗菌剤を含むことを特徴とする組成物。

【請求項 9】

請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の組成物において、当該組成物が消泡剤を含むことを特徴とする組成物。

【請求項 10】

請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載の組成物において、前記口腔粘膜炎が癌の治療により生ずることを特徴とする組成物。

【請求項 11】

請求項 1 乃至 10 のいずれか 1 項に記載の組成物において、前記口腔粘膜炎が化学療法、放射線療法、又は幹細胞療法により生ずることを特徴とする組成物。

【請求項 12】

哺乳動物対象の口腔粘膜炎の治療に使用する医薬品の製造における、キトサンと、ヘパリン、ヘパラン硫酸及びデキストラン硫酸から成る群から選択される負荷電性多糖類とのイオン型錯体を含む組成物の使用。

【請求項 13】

請求項 12 に記載の使用において、前記組成物が、更に請求項 2 乃至 9 のいずれか 1 項によって規定されることを特徴とする使用。

【請求項 14】

請求項 12 又は 13 に記載の使用において、前記口腔粘膜炎が、更に請求項 10 又は 11 によって規定されることを特徴とする使用。